

# 中学生の税についての作文

令和2年度中学生の税についての作文（主催：税を考える週間実行委員会）に、荒尾・玉名地域の中学生から801編の応募があり、本市からは次の2人の作品が優秀作品に選ばれました。荒尾市長賞の四中3年・梅本悠和愛さんの作品を紹介します。

## ●荒尾市長賞

『私に出来ること』

荒尾第四中学校3年 梅本悠和愛さん

## ●荒尾市教育長賞

『私たちの生活と税金』

荒尾第三中学校3年 兼岡幸輝さん

税金という言葉をよく耳にしますが、税金について考えてみても、何のためにあるのかなど、詳しいことは分かりません。私は、学校からもらった資料の中で、一番興味を持った社会保障について調べてみました。

2000年には、3.6人で高齢者1人を支えていましたが、2050年には1.6人で高齢者1人を支えていくことになります。国の税の支出でも社会保障がトップです。少子高齢化が進んで、その費用を負担する働き手が減っているからです。



荒尾市長賞  
『私に出来ること』

私には8年前に病気で寝たきりになった祖父がいました。要介護5になり最も介護が必要な状態になりました。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの医療リハビリを受けていました。受けられる日数に限りがあり、介護保険を利用していました。介護保険の意味が私には分からなかったのですが、両親に聞いてみると、「住み慣れた地域でいつまでも暮らせるように、また介護が必要になっても安心して生活を送れるようにするため。」と教えてくれました。

父が給与明細を見せてくれました。控除項目の中に介護保険料がありました。調べてみたら、40歳から加入する健康保険ごとに介護保険料が決められており、日本国民であれば、だれでも加入が義務づけられている介護保険でした。自己負担額は所得に応じて、1/3割となり、残りの7/9割分が介護保険料からまかなわれていきます。

介護保険の大きな特徴の一つ

が、一生払い続けなければならぬということ。『この税金のおかげで、受けられなかったサービスや高度な介護が受けられているのに、負担額は少なく助かる。』と祖母が言っていました。

介護保険を一生払い続けるとわかったとき私は、はっきりいっていやだなと思いました。私が大人になったときは、まだまだ高齢化が進み、たくさん税金が必要になってくると思います。将来の不安も大きいですが、私達にもできることがたくさんあるはず。消費税が10%と上がりましたが、医療費や介護保険などの負担が減ったわけではないと思います。まだわからないことだらけの税金ですが、見えないところで、いろいろな税金が使われていると思います。税の仕組みやありがたさを理解して、将来のために税金は大切なものだと思います。

# 連載「あらお健康手帳」

## 第3回

### 『私たちの『あらお健康手帳』の使い方』

今までバラバラに分かれていた医療や健康に関する手帳を1冊にまとめた「あらお健康手帳」。市ではあらお健康手帳の活用を推進しています。

今回は、実際にあらお健康手帳を利用している4人にお話を伺いました。



GOOD DESIGN AWARD  
2020年度受賞

**健康への意識が変わった**  
佐藤孝善さん  
手帳使用歴：1年半

今まで毎日の健康状態を記録することはなかったのですが、手帳を使い始めてから意識がガラッと変わりました。

毎日4～5回は手帳を開き、体調管理をしています。検査データ、予防接種の記録も手帳で管理でき、自分の体調が1冊で分かるので、本当に重宝しています。万が一の時のため、いつも持ち歩いています。

**家族と大事な話をするきっかけに**  
弘島純子さん  
手帳使用歴：1カ月

手帳をもらってすぐに「救急シート（救急時の連絡先や対応について記載するシート）」を記入しました。

このシートの記入を通して、現在別居している息子夫婦と一緒に、自分に「もしも」のことがあったときの対応などを本音で話し合うことが出来ました。

**診療情報がまとめられていて安心**  
井村るり子さん（左）・長明さん（右）  
手帳使用歴：1年半（るり子さん）・半年（長明さん）

【長明さん】手帳は主に受診時に使っています。検査データをまとめられるので、病気の今の状態が分かりやすいです。

【るり子さん】かかった病院の先生たちに手帳を記入してもらえ、先生同士の連携を感じます。私も先生たちのやり取りを見ることができのうが、いいですね。治療や薬のことも手帳を見れば確認できるので、安心して通院できています。

**使い方は人それぞれ「あらお健康手帳」で健康管理を始めてみませんか**

「あらお健康手帳」は、かかりつけ医や在宅ネットあらおでもらうことができます。

**市民公開講座を行います**

- 日時 2月13日(土) 午後1時30分～4時
- 場所 文化センター大ホール
- テーマ 新荒尾市民病院の役割とあらお健康手帳の活用～ウィズコロナに向けた取り組み～
- 内容 基調講演（木村敬熊本県副知事）  
パネルディスカッション
- 申込方法 電話で申し込み（当日参加も可）
- 参加費 無料